

平成26年9月18日

各位

会社名 マックスバリュ西日本株式会社
代表者名 代表取締役社長 加栗章男
(コード番号8287 東証第2部)
問い合わせ先 常務取締役管理担当 井戸智文
(電話：082-535-8494)
当社の親会社 イオン株式会社
代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田元也
(コード番号8267 東証第1部)

業績予想の修正及び特別損失計上に関するお知らせ

当社は、平成26年4月8日に公表した平成27年2月期第2四半期累計期間（平成26年3月1日～平成26年8月31日）の業績予想を修正するとともに、下記の通り特別損失を計上いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 平成27年2月期第2四半期（累計）連結業績予想の修正 (百万円未満切捨て)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	135,200	1,500	1,550	600	22.93
今回修正予想 (B)	134,942	833	997	△29	△1.10
増減額 (B-A)	△257	△666	△552	△629	—
増減率 (%)	△0.2	△44.4	△35.6	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成25年2月期第2四半期)	132,067	1,436	1,549	174	6.66

2. 修正の理由

営業収益につきましては、消費税率引上げ前に買い置き可能な商品群が大きく伸長したものの、4月以降は駆け込み需要の反動を避けられない状況が続きました。このような中で当社は、お客さまの低価格志向に対応して価格競争力の強化を図る一方で、差別化戦略としてイオンのブランド「トップバリュ」の拡販に努めました。しかしながら、7月～8月における記録的な降雨の影響もあり、営業収益は業績予想を下回る見込みであります。

一方、営業利益が業績予想を下回る主な要因は、売上総利益率の低下であり、これは値入率が価格据置き措置等によって計画に満たなかったことによるものであります。

当社は、この売上総利益高の減少を吸収すべく経費の圧縮に努めましたが、新店4店舗の開設等もあり、経費の圧縮はわずかに計画を下回る見通しです。

四半期純利益につきましても、以下に記載のとおり減損損失を計上したことにより、業績予想を下回る見込みであります。

3. 特別損失の計上及びその内容

減損損失	708百万円
<u>固定資産除売却損等</u>	<u>54百万円</u>
特別損失合計	763百万円

当社は、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、保有する固定資産について将来の回収可能性を検討した結果、店舗等に係る減損損失として7億8百万円を計上いたします。

その他、固定資産除売却損等54百万円を含めた特別損失の合計は7億63百万円となる見込みです。

4. 通期の業績予想

今後も経営環境と競争環境の厳しさは継続するものと予想されます。当社は、下期において重点カテゴリー（例えば「食のつくりにくい化」への対応、旬商品の取組み強化等）の拡販、新商品やリニューアル商品の積極的な導入、52週マーチャンダイジング商品の構成比アップ等に新たに取り組んでまいります。また、9月5日に新規開店した2店舗（マックスバリュ祇園店、マックスバリュ高取店）は好調に推移しており、今後も地域のお客さまに必要とされる店づくりに努めてまいります。

経費につきましても新店投資のローコスト化や経費削減委員会によるオペレーションコストの削減等に取り組んでまいります。

通期の業績予想につきましては、平成26年4月8日に開示した連結業績予想から変更はありません。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって業績予想数値と異なる場合があります。

以上